

研究結果概要書

開田美紅

1. 研究テーマ

浜田市金城町のアルカリイオン水を使った石鹼製造による地域活性化の可能性

2. 研究の目的

浜田市には、純天然のアルカリイオン水という、世界的にも希少な地域資源が存在するものの、その存在や価値は十分に知られていないのが現状である。そこで、アルカリイオン水の魅力を広める手段として、日常生活において使える商品を作ることで、認知度を高められるのではないかと考えた。当初は、化粧品や石鹼といったスキンケア、生活用品への活用を検討していたが、フィールドワークを通じて、単に肌に塗る製品を作る以上の、現代社会特有の課題が見えてきた。

そこで新たに注目したのが、五感を通じて浜田を感じ、心身を癒すためのツールである芳香蒸留水だった。さらにアルカリイオン水と浜田の特産品でもあるピオーネを掛け合わせることで、地域性・ストーリー性のあるものとして認知拡大を図っていきたいと考えた。

3. 研究方法及び研究内容

本研究は、仮設立案、実証、最終提案の主に3段階で実施した。

(1) 実践的フィールドワーク

アルカリイオン水を取り扱う「株式会社ケイ・エフ・ジー」およびアロマ・化粧品雑貨ショップである「Fracoco」を訪問した。

(2) 試作と試作品の体験

実際にアルカリイオン水を使用し、米ぬか化粧水の試作、ピオーネの果皮を使用した芳香蒸留水の試作を行った。

(3) ターゲット・マーケティング分析

Fracoco 訪問を機に、30～40代の社会人・主婦層を中心に癒しを求めていることがわかった。

4. 研究結果

本研究を通じて、浜田市金城町のアルカリイオン水を活用した地域活性化の一つの方向性として、浜田市のピオーネを掛け合わせた芳香蒸留水という提案を導き出した。これは、当初想定した化粧品開発という枠組みから、現代社会において高まる癒しへのニーズに着目し、製品形態を柔軟に転換した点に本研究の特徴がある。

芳香蒸留水は、香りによる精神的価値の提供を主軸としながらも、アルカリイオン水の浸透性や素材としての良質さを、比較的自由度の高い形で消費者に届けることが可能である。そのため、法的制約を回避しつつ、地域資源の魅力を最大限に引き出す現実的な手段であることが示された。